

1.1.1 実施概要

高齢者と同じ公共交通機関に頼らざるを得ない交通弱者に該当する高校生の意向を把握することを目的に、嘉飯地区の県立高校に通う1年生を対象に、配布・回収を各高校に依頼したアンケート調査を実施した。概要は次のとおりである。

▼ 高校生アンケート調査の概要（令和3年度調査）

対 象	嘉飯地区の県立高校1学年全員
調 査 方 法	各学校に配付・回収を依頼
実 施 期 間	令和3年6月18日（金）～7月21日（水）

▼ 各高校のアンケート配布・回収状況（令和3年度調査）

高校名	配布数	回答数	回収率
稲築志耕館高校	187	181	96.8%
嘉 穂 高 校	283	277	97.9%
嘉穂総合高校	128	121	94.5%
嘉穂東高校	201	199	99.0%
合 計	799	778	97.4%

〔参考(前回の調査)〕

▼ 高校生アンケート調査の概要（平成29年度調査）

対 象	嘉飯地区の県立高校1学年全員
調 査 方 法	各学校に配付・回収を依頼
実 施 期 間	平成29年10月19日（木）～10月27日（金）

▼ 各高校のアンケート配布・回収状況（平成29年度調査）

高校名	配布数	回答数	回収率
稲築志耕館高校	238	225	94.5%
嘉 穂 高 校	320	316	98.8%
嘉穂総合高校	149	142	95.3%
嘉穂東高校	238	233	97.9%
合 計	945	916	96.9%

1.1.2 総括

《回答者属性》

○回答者の居住地は「飯塚市、嘉麻市、桂川町」の順に多く、2市1町で全体の9割以上を占めている。平成29年度調査に比べて、令和3年度調査では、学校からの距離が「5km未満」の割合が大きくなっている。

《主な交通手段》

○「自転車」を利用した通学の割合が最も高くなっている。

○次いで「自動車」の割合が高くなっているが、平成29年度調査に比べて、令和3年度調査ではその割合が低くなっている。自動車での通学の理由としては「家族の通勤時間と重複するため」が最も多くなっている。

○平成29年度調査に比べて、令和3年度調査では「鉄道やバス」などの公共交通機関の利用割合が伸びてきている。一方で、最寄りの駅・バス停までの移動手段を見ると、「徒歩」の割合が最も高くなっているが、次に「自動車」の割合が高くなっており、公共交通を利用するにも駅やバス停まで自動車を利用する必要がある回答者が多く見られる。

○登校時の交通手段を距離別に見ると、「10km未満」までは「自動車」に比べて「徒歩や自転車」の割合が高くなっているが、「10km以上」では「自動車」利用が逆転している。

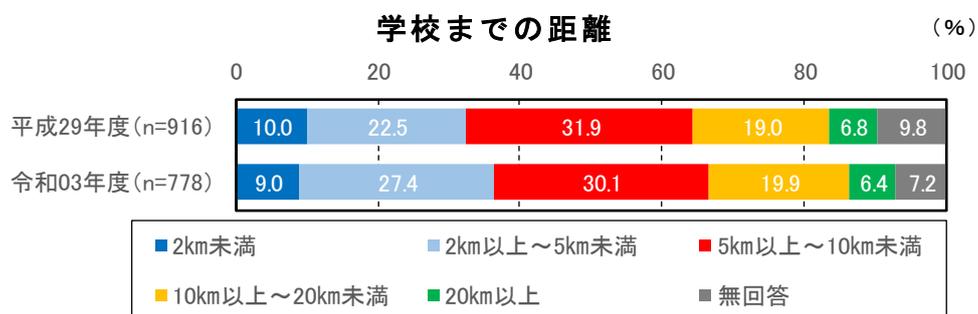
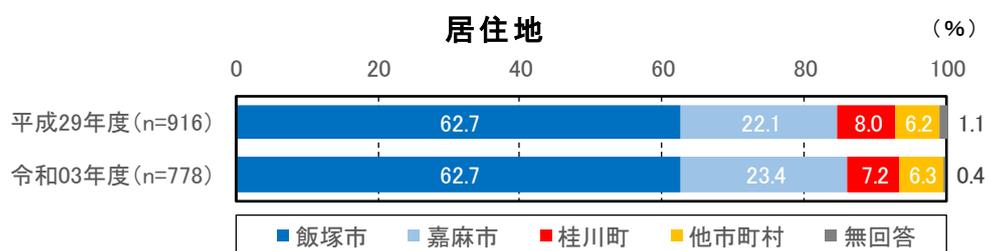
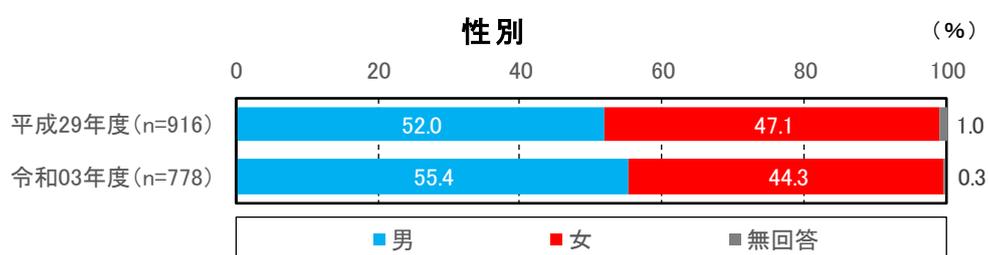
《公共交通に対する要望》

○バスや電車の運行本数を増やしてほしいという意見が多くを占めており、利便性の向上を願う声が多いことが分かる。

1.1.3 調査結果

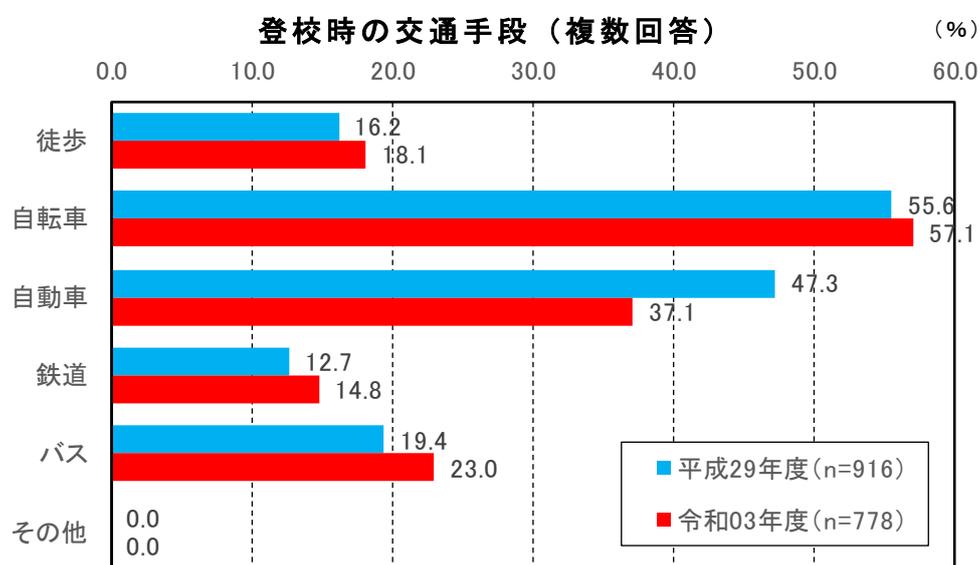
(1) 回答者属性

- 回答者の居住地については「飯塚市、嘉麻市、桂川町」の順に多く、2市1町で全体の9割以上を占めている。
- 学校までの距離については、平成29年度調査では「5km未満」と「5km以上～10km未満」がほぼ同じ割合で全体の6割以上を占めていたが、令和3年度調査では「5km未満」の割合が大きくなっている。
- 「20km以上」の通学も約7%あり、遠距離での通学もあることが分かる。

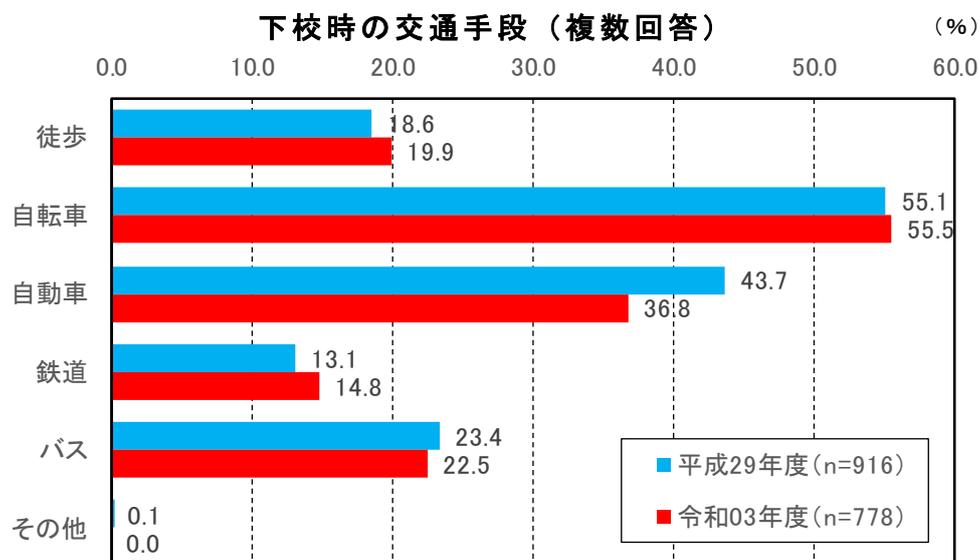


(2) 登下校時の主な交通手段

- 登下校時の主な交通手段については、それぞれ「自転車」との回答割合が最も高くなっている。
- 次に「自動車」との回答割合が高くなっているが、平成29年度調査に比べて令和3年度調査ではその割合が1割程度低くなっている。
- 「自動車」の割合が「鉄道やバス」などの公共交通機関の利用割合に比べて多数を占めているが、平成29年度調査に比べて令和3年度調査では「鉄道・バス」ともにその利用割合は伸びてきている。
- 通学手段としての地域公共交通を確保・維持していくうえで、公共交通網の充実を図ることと併せ、今以上に自動車からの転換を促すことが課題と思われる。



※数字は、各年度の回答者数（n値）に対する割合を示す
 ※平成29年度回答数（MA=1,384）、令和03年度回答数（MA=1,168）

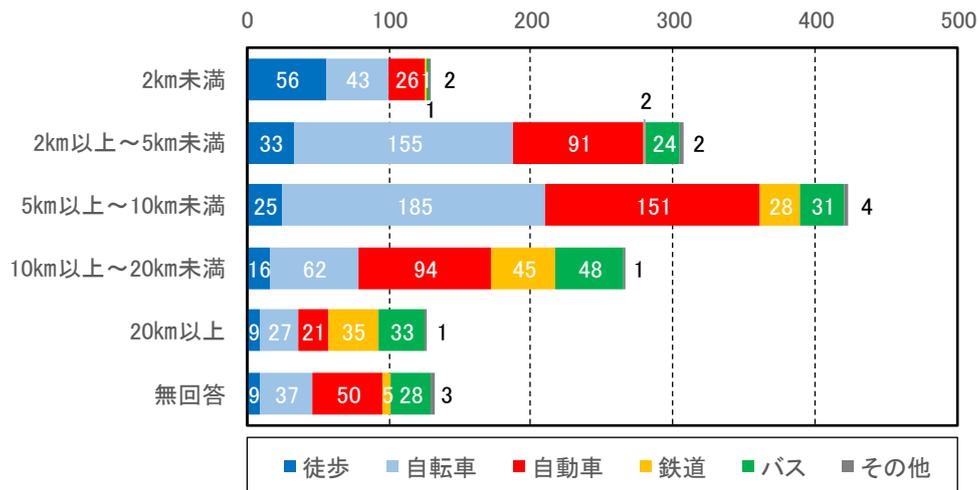


※数字は、各年度の回答者数（n値）に対する割合を示す
 ※平成29年度回答数（MA=1,410）、令和03年度回答数（MA=1,163）

○ 距離別における登下校時の交通手段については、「10km 未満」までは、「自動車」に比べて「徒歩や自転車」の割合が高くなっているが、「10km 以上」では「自動車」利用が逆転している（登校時）。

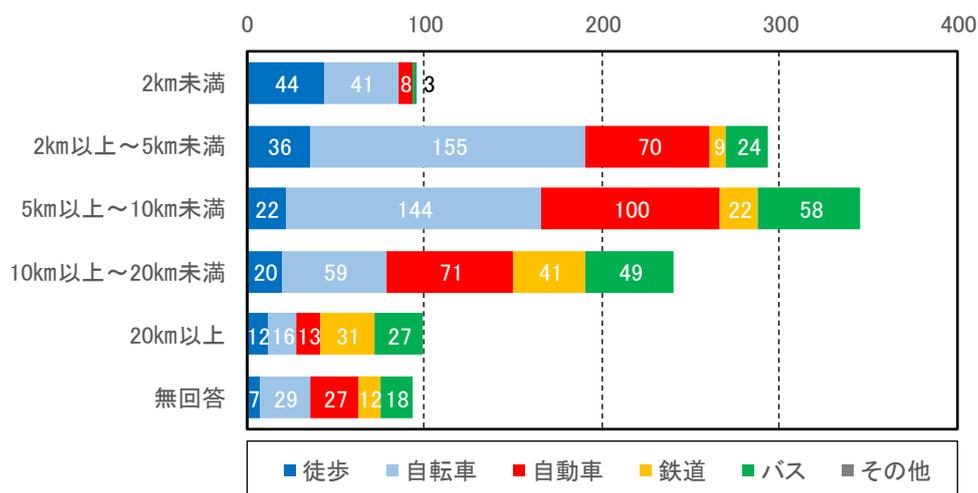
○ 10km 未満の方の公共交通の利用割合は低く、また 2km 未満でも自動車が一定数いることから、通学手段としての自動車への依存度の高さが見られる。

【平成29年度】登校時の交通手段（学校までの距離別） (人)



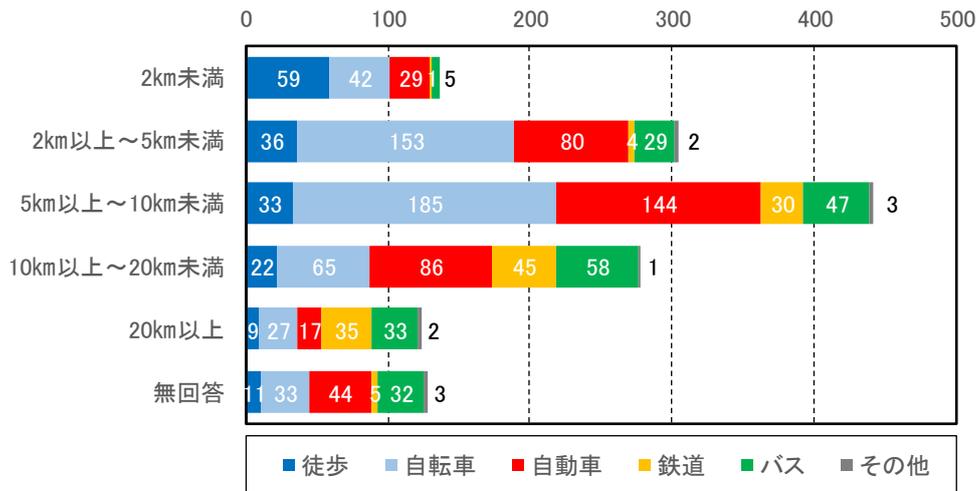
※回答者数 (n=916)、回答数 (MA=1,384)

【令和03年度】登校時の交通手段（学校までの距離別） (人)



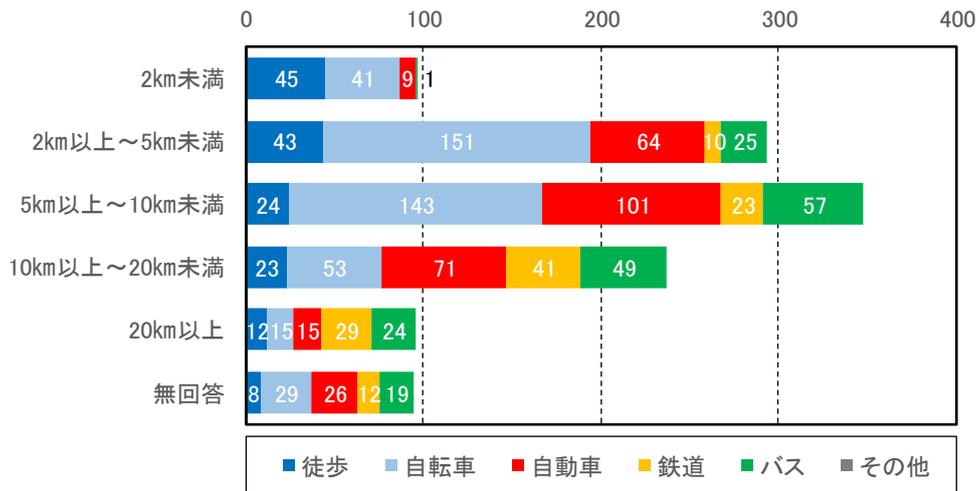
※回答者数 (n=778)、回答数 (MA=1,168)

【平成29年度】下校時の交通手段（学校までの距離別） (人)



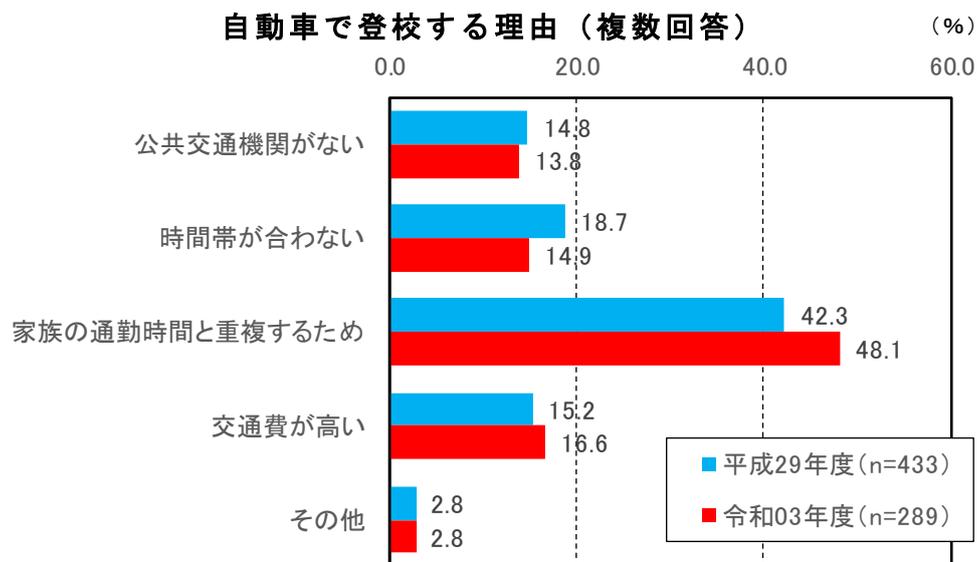
※回答者数 (n=916)、回答数 (MA=1,410)

【令和03年度】下校時の交通手段（学校までの距離別） (人)

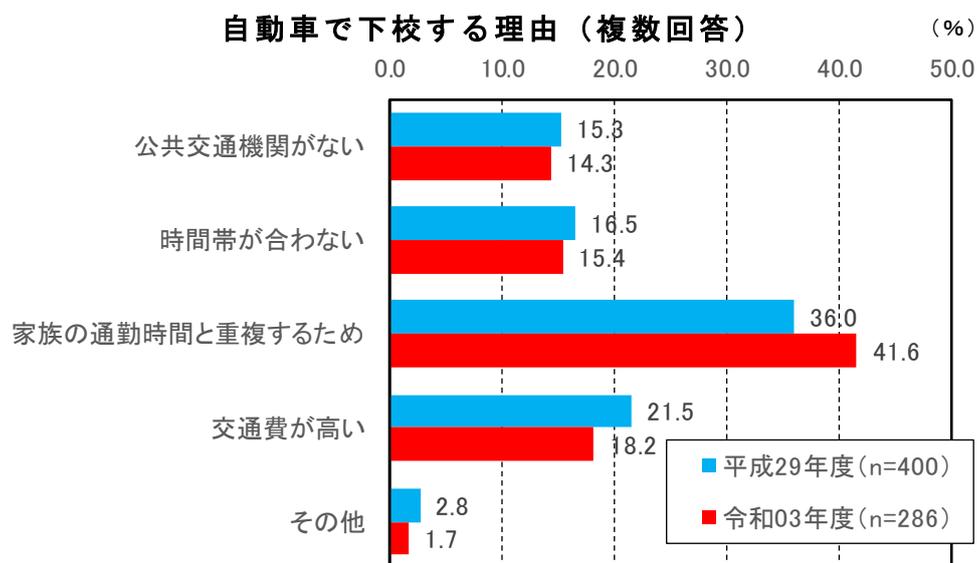


※回答者数 (n=778)、回答数 (MA=1,163)

- 自動車での通学の理由としては、「家族の通勤時間と重複するため」が最も多くなっている。
- 次に「公共交通機関がない」、「時間帯が合わない」、「交通費が高い」がほぼ同数の回答となっており、公共交通機関の有無、利便性、金額が影響していることが分かる。



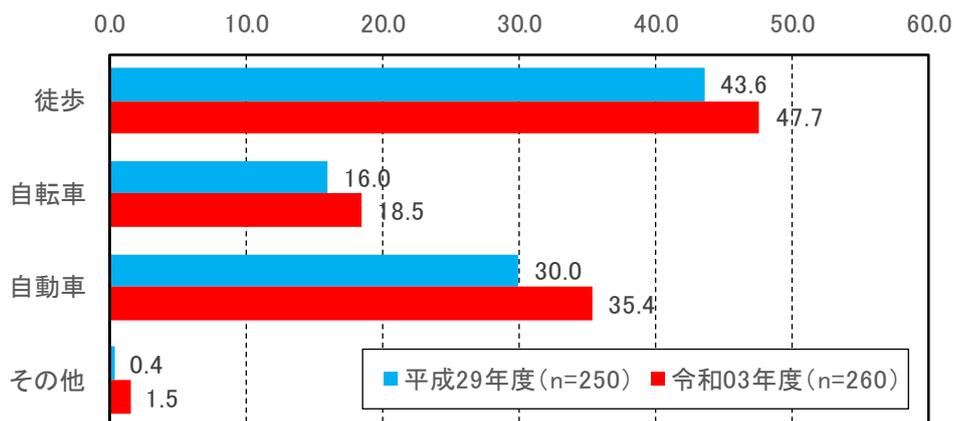
※数字は、各年度の回答者数（n値）に対する割合を示す
 ※平成29年度回答数（MA=406）、令和03年度回答数（MA=278）



※数字は、各年度の回答者数（n値）に対する割合を示す
 ※平成29年度回答数（MA=368）、令和03年度回答数（MA=261）

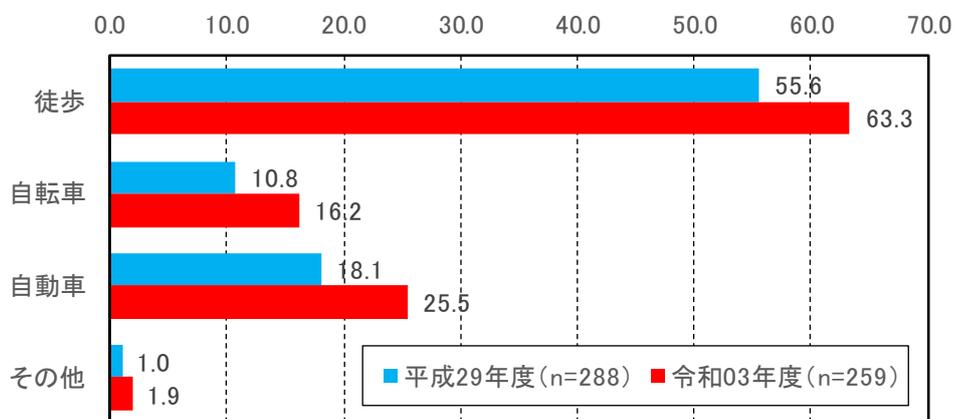
○ 最寄りの駅・バス停までの移動は徒歩が多くなっているが、次に自動車の割合が多くなっており、公共交通を利用するのにも、駅やバス停までに自動車を利用しないといけない方が多数いることが分かる。

登校時に鉄道やバスを利用する方の最寄りの駅またはバス停までの交通手段（複数回答）



※数字は、各年度の回答者数（n値）に対する割合を示す
 ※平成29年度回答数（MA=225）、令和03年度回答数（MA=268）

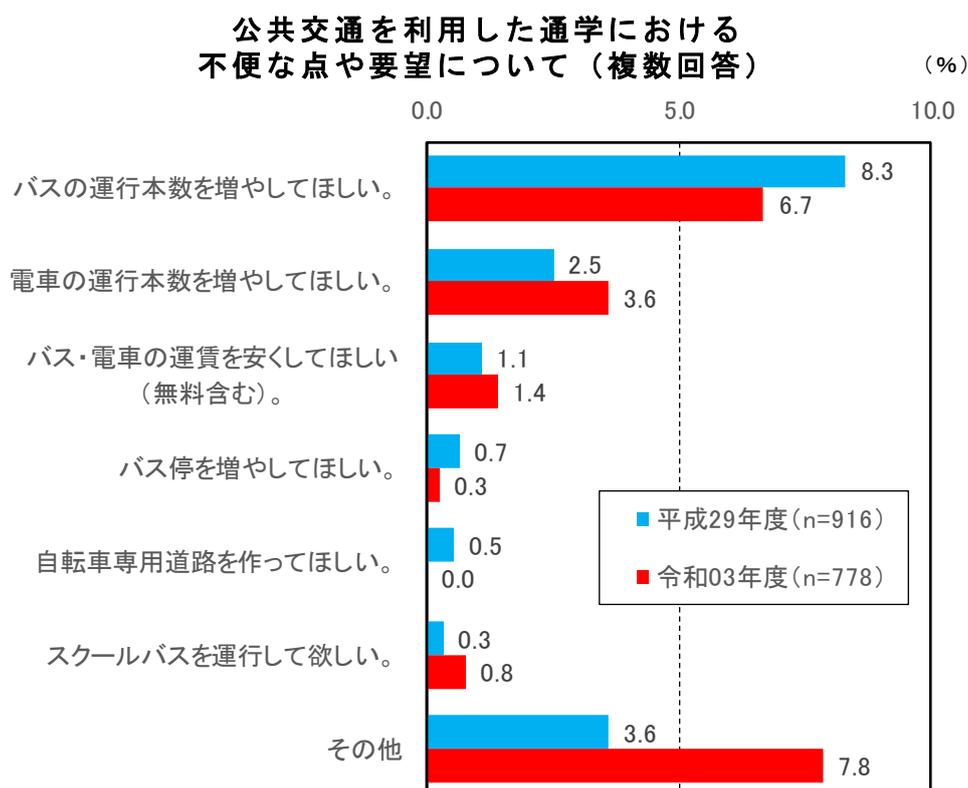
下校時に鉄道やバスを利用する方の最寄りの駅またはバス停からの交通手段（複数回答）



※数字は、各年度の回答者数（n値）に対する割合を示す
 ※平成29年度回答数（MA=246）、令和03年度回答数（MA=277）

(3) 公共交通に対する要望（自由意見）

- バスや電車の運行本数を増やしてほしいという意見が多くを占めており、利便性の向上を願う声が多いことが分かる。
- その他の意見の中にも、バス停の増設やスクールバスの運行などを求める声が多く、自動車からの転換を図るために公共交通網の充実が必要となっている。



※数字は、各年度の回答者数（n値）に対する割合を示す
 ※平成29年度回答数（MA=156）、令和03年度回答数（MA=160）

※「料金が高い」等は「運賃を安くしてほしい」と判定。「本数が少ない、待ち時間が長い、早い時間・遅い時間・適切な時間に走っていない」等は「運行本数を増やしてほしい」と判定。

※単に「本数を増やしてほしい」等の意見は、バス・鉄道両方の「本数を増やしてほしい」にカウント。

※「バス停が少ない」等は「バス停を増やしてほしい」と判定。

(4) 学校別の状況

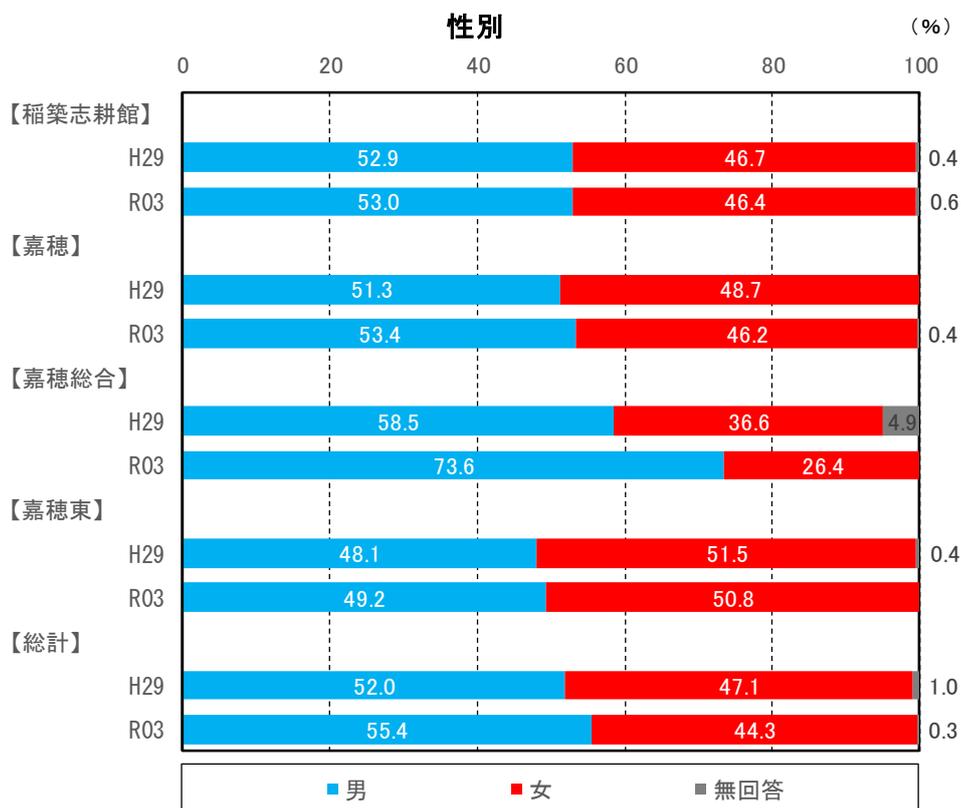
①回答者属性

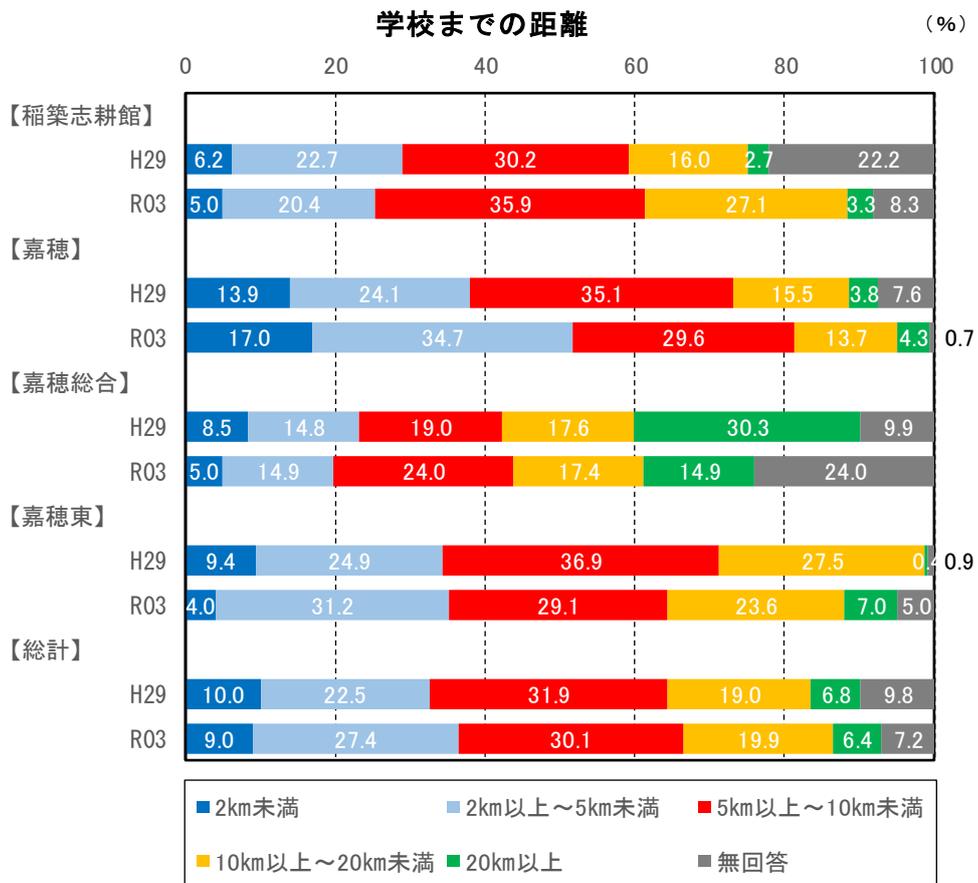
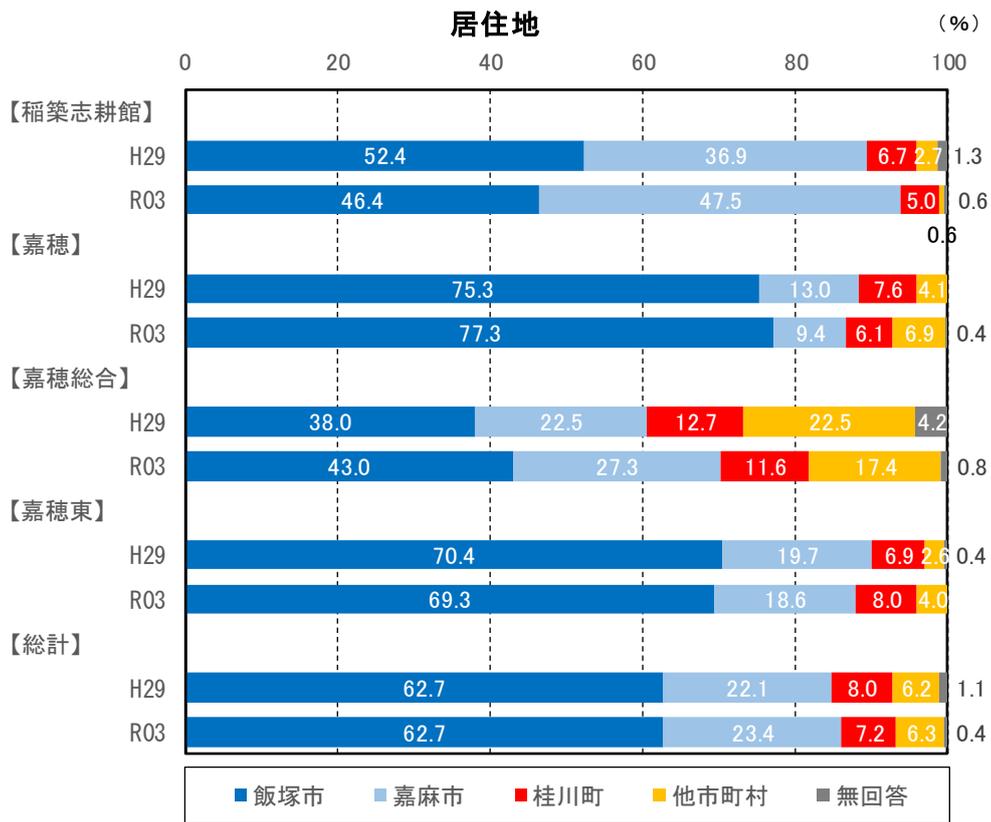
《平成 29 年度》

- 稲築志耕館：飯塚市内に居住している生徒の割合が最も高いが、嘉麻市内に居住している生徒の割合も4割程度見られる。
- 嘉穂：飯塚市内に居住している生徒の割合が4校の中で最も高く、学校までの距離も比較的近い生徒の割合が高い。
- 嘉穂総合：桂川町・他市町村に居住している生徒の割合が4校区の中で最も高く、学校までの距離が比較的遠い生徒が多い。
- 嘉穂東：嘉穂と同様飯塚市内に居住している生徒の割合が高いが、嘉穂高校に比べて学校までの距離が10 km以上ある生徒の割合が高い。

《令和 3 年度》

- 稲築志耕館：嘉麻市に居住している生徒の割合が最も高いが、飯塚市内に居住している生徒の割合も同程度見られる。
- 嘉穂：飯塚市内に居住している生徒の割合が4校の中で最も高く、学校までの距離も比較的近い生徒の割合が高い。
- 嘉穂総合：桂川町・他市町村に居住している生徒の割合が4校区の中で最も高く、学校までの距離が比較的遠い生徒が多い。（※距離不明が多い）
- 嘉穂東：嘉穂と同様飯塚市内に居住している生徒の割合が高いが、嘉穂高校に比べて学校までの距離が比較的遠い生徒の割合が高い。





②登下校時の主な交通手段

《平成 29 年度》

- 稲築志耕館：自動車を利用して通学している生徒の割合が 62.2%と最も高く、4 校区の中でその割合が最も高い。一方でバスを利用して通学している生徒の割合が 24.4%と嘉穂総合に次いで高いが、鉄道は 0.9%と最も低い。
- 嘉穂：自転車を利用して登下校している生徒の割合が 4 校区の中で最も高い。自動車を利用して通学している生徒の割合が 46.2%と 4 校区の中で稲築志耕館に次いで高くなっている。
- 嘉穂総合：自転車を利用して登下校している生徒の割合が最も高いが、鉄道・バスともに利用者の割合が 25.4%、27.5%と高く、公共交通を利用して通学している生徒も比較的多い。
- 嘉穂東：自転車を利用して登下校している生徒の割合が最も高いが、鉄道を利用して通学している生徒の割合が 31.3%と 4 校区の中で最も高くなっている。バスは 12.0%と最も低い。

《令和 3 年度》

- 稲築志耕館：自動車を利用して通学している生徒の割合が 62.4%と最も高く、他校と比較してもその割合が非常に高い。一方でバスを利用して通学している生徒の割合が 28.7%と 4 校区の中で最も高くなっているが、鉄道は 1.7%と最も低い。
- 嘉穂：自転車を利用して登下校している生徒の割合が 4 校区の中で最も高い。バスを利用して通学している生徒の割合が 24.9%と 4 校区の中で稲築志耕館に次いで高く、1 / 4 は鉄道通勤。
- 嘉穂総合：自転車を利用して登下校している生徒の割合が最も高いが、鉄道・バスともに利用者の割合が 21.5%、23.1%と多く、公共交通を利用して通学している生徒も比較的多い。
- 嘉穂東：自転車を利用して登下校している生徒の割合が最も高いが、鉄道を利用して通学している生徒の割合が 31.2%と 4 校区の中で最も高くなっている。バスは 15.1%と最も低い。

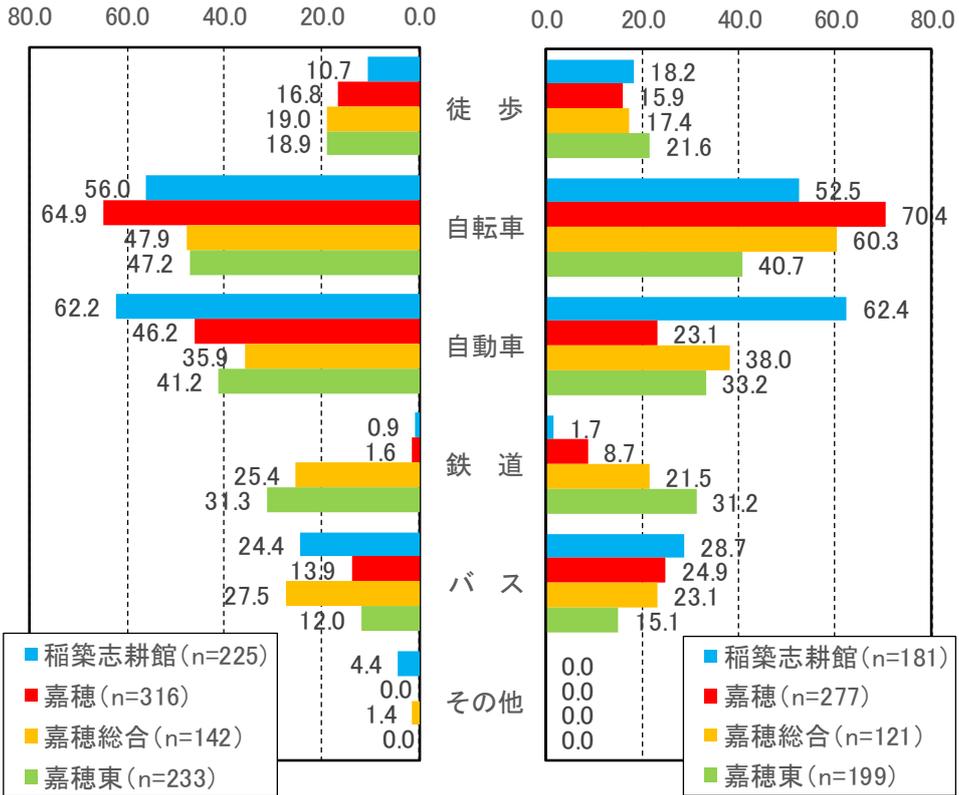
登校時の交通手段（複数回答）

【H29】

(%)

【R03】

(%)



※数字は、各年度の回答者数（n値）に対する割合を示す

※回答数H29（稲築志耕館MA=357、嘉穂MA=453、嘉穂総合MA=223、嘉穂東MA=351）

※回答数R03（稲築志耕館MA=296、嘉穂MA=396、嘉穂総合MA=194、嘉穂東MA=282）

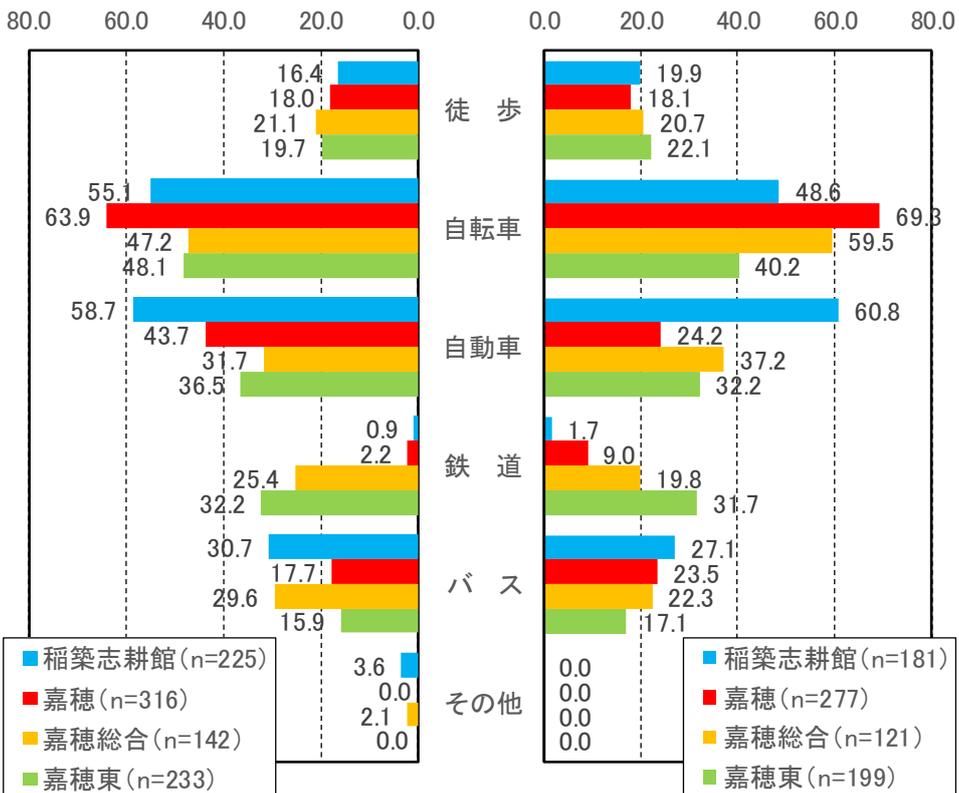
下校時の交通手段（複数回答）

【H29】

(%)

【R03】

(%)



※数字は、各年度の回答者数（n値）に対する割合を示す

※回答数H29（稲築志耕館MA=372、嘉穂MA=460、嘉穂総合MA=223、嘉穂東MA=355）

※回答数R03（稲築志耕館MA=286、嘉穂MA=399、嘉穂総合MA=193、嘉穂東MA=285）

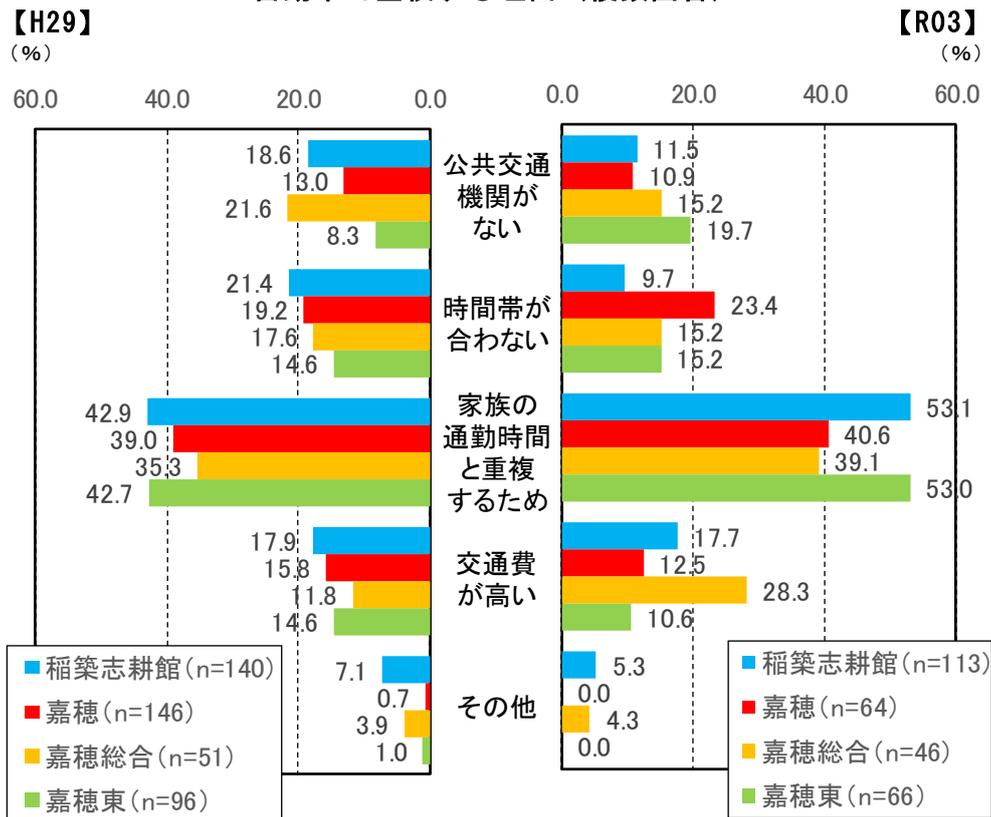
《平成 29 年度》

- 自動車で登下校する理由は、全ての学校で「家族の通勤時間と重複するため」という回答割合が高くなっている。
- 「稲築志耕館・嘉穂東・嘉穂東」では「時間帯が合わない」、「嘉穂総合」では「公共交通機関がない」という回答の割合が次いで高くなっている。

《令和 3 年度》

- 自動車で登下校する理由は、全ての学校で「家族の通勤時間と重複するため」という回答割合が高くなっている。特に「稲築志耕館・嘉穂東」では半数以上の生徒が理由としてあげている。
- 「嘉穂」では「時間帯が合わない」、「嘉穂総合」では「交通費が高い」という回答の割合が高くなっている。

自動車で登校する理由（複数回答）

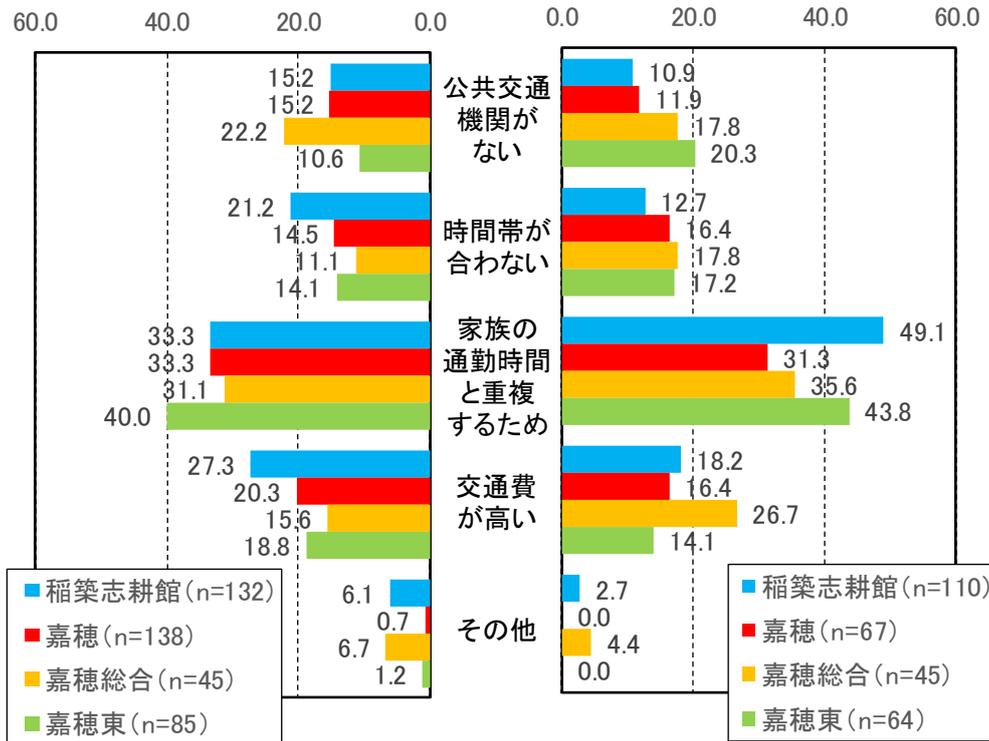


※数字は、各年度の回答者数（n値）に対する割合を示す
 ※回答数H29（稲築志耕館MA=151、嘉穂MA=128、嘉穂総合MA=46、嘉穂東MA=78）
 ※回答数R03（稲築志耕館MA=110、嘉穂MA=56、嘉穂総合MA=47、嘉穂東MA=65）

自動車で下校する理由（複数回答）

【H29】
(%)

【R03】
(%)



※数字は、各年度の回答者数（n値）に対する割合を示す

※回答数H29（稲築志耕館MA=136、嘉穂MA=116、嘉穂総合MA=39、嘉穂東MA=72）

※回答数R03（稲築志耕館MA=103、嘉穂MA=51、嘉穂総合MA=46、嘉穂東MA=61）

《平成 29 年度》

《登校》

- すべての高校で「徒歩」の割合が最も高くなっている。
- 「嘉穂東」では「徒歩」の割合が最も高いが、同程度「自動車」の割合も高くなっている。
- 「嘉穂」も同様の傾向にあるが、「徒歩」が 54.5%、「自動車」が 38.6%と「徒歩」の割合が 15%程度高い（自動車の割合は 4 校区の中で最も高い）。

《下校》

- 全ての学校で「徒歩」の割合が最も高いと同時に、登校時よりさらに高くなっている高校が多く、「登校時は自動車で送ってもらうが帰りは歩いて帰る」という動きがあると考えられる。
- 登校時に「自動車」の割合が最も高かった「嘉穂」次いで高かった「嘉穂東」では下校時でもその割合が比較的高い。

《令和 3 年度》

《登校》

- 「稲築志耕館及び嘉穂東」は「徒歩」の割合が最も高いが、同程度「自動車」の割合も高くなっている（ともに 4 割程度）。
- 「嘉穂」も同様の傾向にあるが、「徒歩」が 52.0%、「自動車」が 41.3%と「徒歩」の割合が 1 割程度高い（自動車の割合は 4 校区の中で最も高い）。
- 「嘉穂総合」は「徒歩」の割合が圧倒的に高く、次いで「自転車」の割合も高い（ともに 4 校区の中で最も高い）。

《下校》

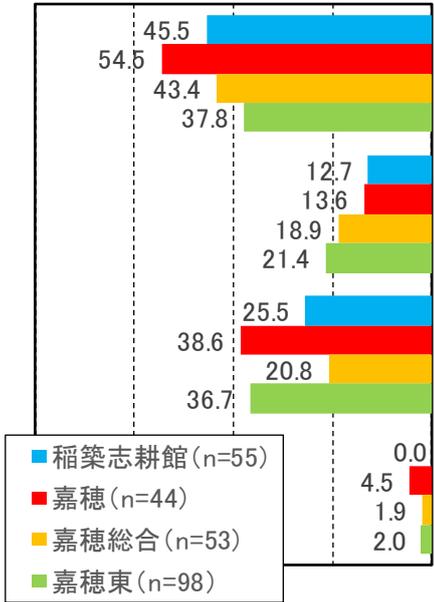
- 全ての学校で「徒歩」の割合が最も高いと同時に、登校時よりさらに高くなっている高校が多く、「登校時は自動車で送ってもらうが帰りは歩いて帰る」という動きがあると考えられる。
- 登校時に「自転車」の割合が最も高かった「嘉穂総合」では下校時でもその割合が比較的高く、同様に「自動車」の割合が最も高かった「嘉穂」では下校時でもその割合が比較的高い。

登校時に鉄道やバスを利用する方の最寄りの
駅またはバス停までの交通手段（複数回答）

【H29】

(%)

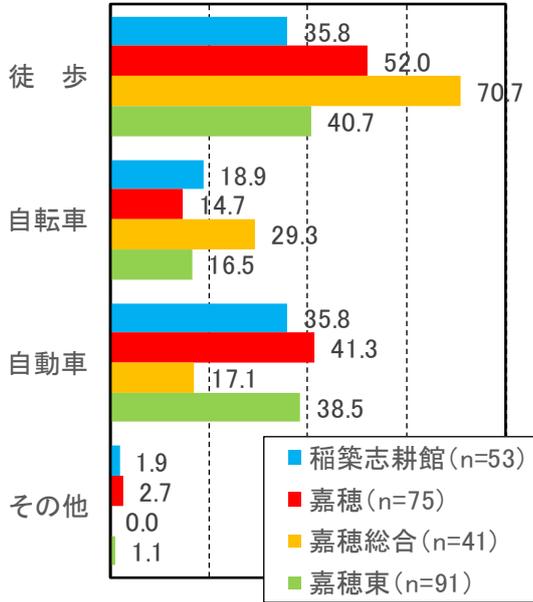
80.0 60.0 40.0 20.0 0.0



【R03】

(%)

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0



※数字は、各年度の回答者数（n値）に対する割合を示す

※回答数H29（稲築志耕館MA=46、嘉穂MA=49、嘉穂総合MA=45、嘉穂東MA=96）

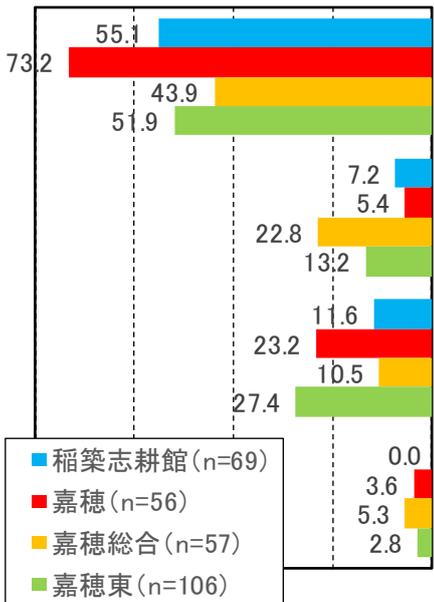
※回答数R03（稲築志耕館MA=49、嘉穂MA=83、嘉穂総合MA=48、嘉穂東MA=88）

下校時に鉄道やバスを利用する方の最寄りの
駅またはバス停からの交通手段（複数回答）

【H29】

(%)

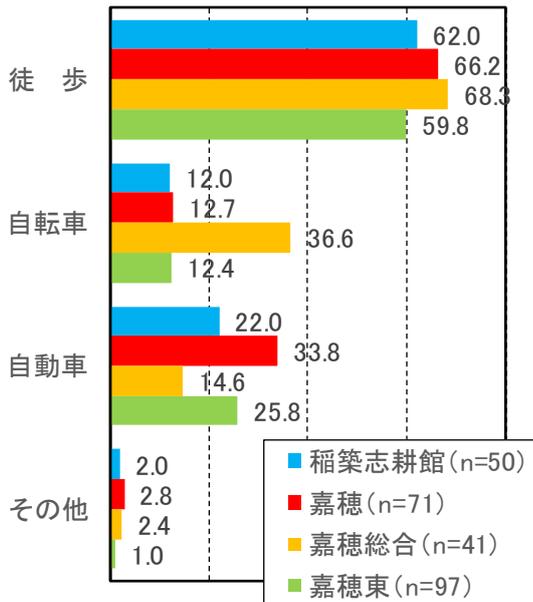
80.0 60.0 40.0 20.0 0.0



【R03】

(%)

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0



※数字は、各年度の回答者数（n値）に対する割合を示す

※回答数H29（稲築志耕館MA=51、嘉穂MA=59、嘉穂総合MA=47、嘉穂東MA=101）

※回答数R03（稲築志耕館MA=49、嘉穂MA=82、嘉穂総合MA=50、嘉穂東MA=96）